

なんで今困ってないの？

あのー、獣害対策の基本中の基本は、**柵は一日24時間、1年365日、効かせておく**なんですけどお。

今の時期、平気でイノシシネットや電柵を撤去してる田んぼが結構多い。

伊佐市、薩摩川内市、さつま町、日置市なんか少しずつ、稲刈り後こそ柵は効かせるって人たちが増えてきたよ。

で、なぜ5月号で田んぼの獣害対策の話をするかといえは、去年イノシシに入られたのに今年、まだ柵をしてない人に1日でも早く柵を設置してほしいから。

イノシシは生き物だから一年中、餌を食べてるでしょ。春はタケノコも好物だけど、畦や土手の青草もすぐ食べる。今夜もイノシシは田んぼの周り、刈払いされた後に伸びた柔らかい青草求めて土手をうろうろしてる。

田んぼって、田植え終わったら35〜40日くらいで水を落として中干しするでしょ。代かきが丁寧でない田んぼは中干した時に所々に水たまりができる。その小さな水たまり



見通しがきく。

『餌付け』しない田んぼ

トタンやメッシュの柵



柵とエサ（作物）は1メートル空いている。柵の外側が歩ける。

守れる米作りに変えよう

田んぼの周りにイノシシが安心できる茂み作って、一年中、二番穂、レンゲ、柔らかい雑草からオタマジャクシやコブナまで食わせた時点であなたの田んぼの『餌付け』は完了。

まず、田んぼのまわりの潜在力は消す。柵は外側を歩けるラインに設置して1年中効かせる。

柵が邪魔で機械が扱いにくいと思うあなたは田んぼのへりまで欲張って植えすぎ。

コメもレンゲも食わせない、『餌付け』をやめて、休耕田復活させた先進地、いっぱいできてから、負けずに頑張ってくださいね。

次回は果菜類の畑だよ～



講師紹介 **井上 雅央氏**

1949年、奈良県出身。

愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、京都大学博士（農学）。

元農研機構 近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム長。

退職後、同センター専門員。宮崎県、熊本県、広島県、静岡県などでアドバイザーとして継続的に活動。

著書に、『これならできる獣害対策』『山の畑をサルから守る』『山と田畑をシカから守る』『60歳からの防除作業便利帳』『ハタニ』『女性がすれぱずんずん進む獣害対策』（いずれも農文協）など多数。

